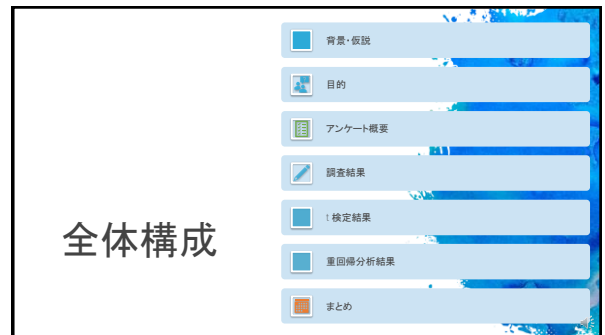




1



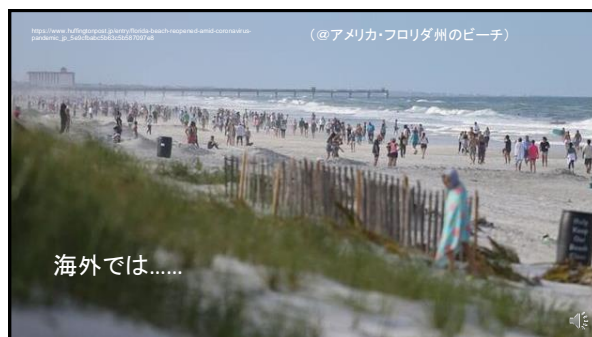
2



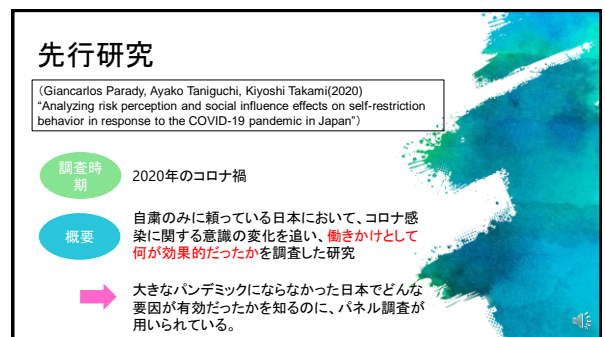
3



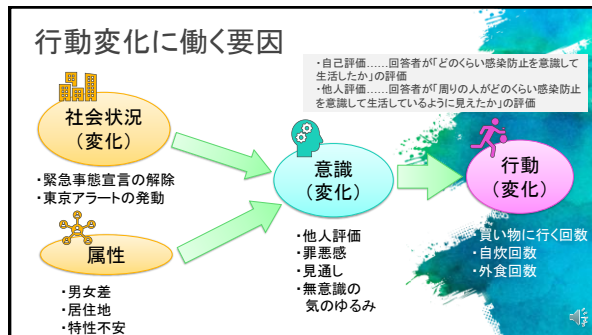
4



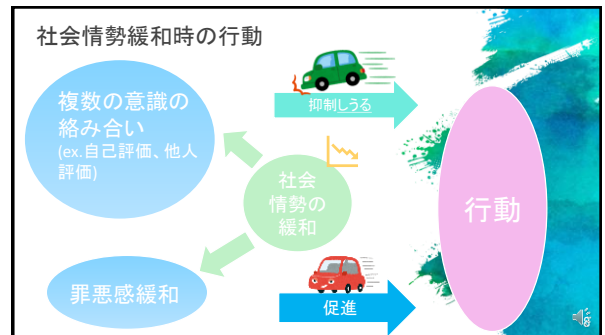
5



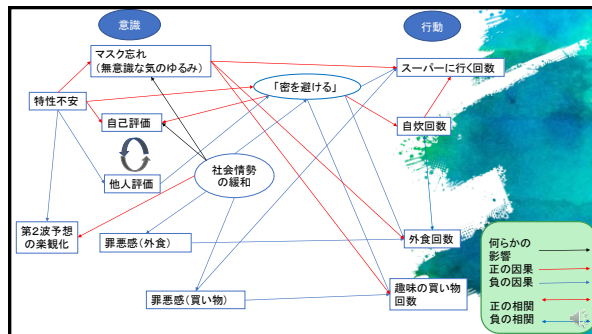
6



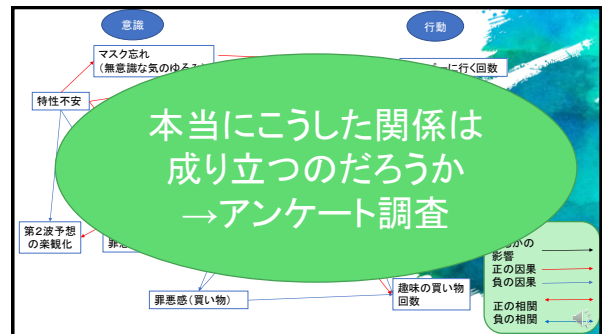
7



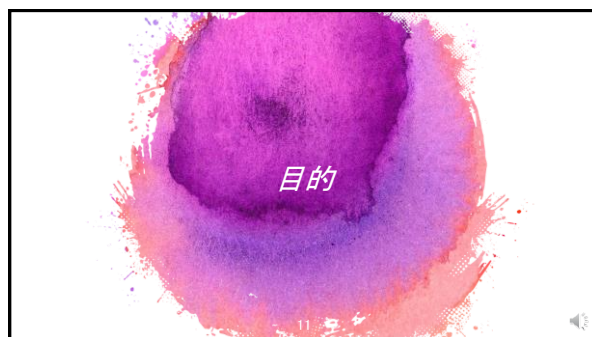
8



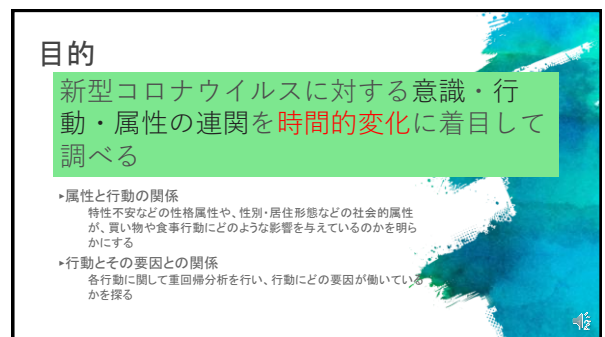
9



10



11



12



13

検証方法 アンケート調査

調査対象
筑波大学 学群生・大学院生

調査期間
2020.5/25~6/9
第1回: 5/18~5/24までの内容を5/25~5/26に回答してもらう
第2回: 5/25~5/31までの内容を6/1~6/2に回答してもらう
第3回: 6/1~6/7までの内容を6/8~6/9に回答してもらう
(一部回答期限を延長)

14

検証方法 アンケート調査

配布方法
学年・学類を問わずに調査への協力の呼びかけを行い、teamsに作成したチーム内でアンケートを配布、回収。

収集サンプル数
第1回: n=151 第2回: n=117 第3回: n=104 3回連続: n=90

サンプル数確保のために
継続して回答してもらうため、調査結果のフィードバックを実施

15

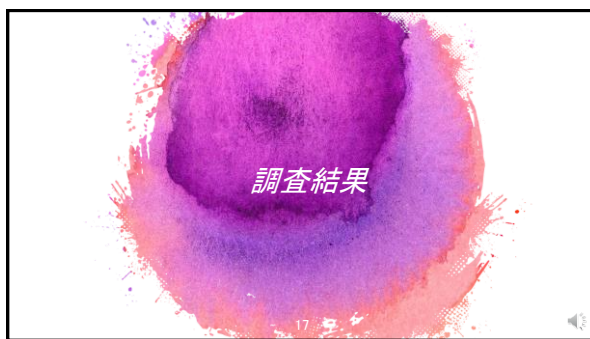
調査期の社会情勢

茨城 **全国**

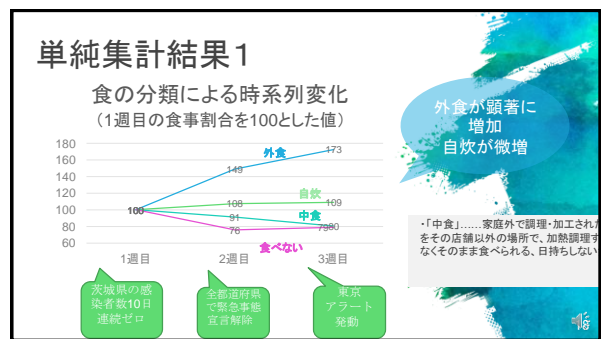
5/14		39県で緊急事態宣言解除
5/15	感染者10日連続ゼロ	
5/25	対策ステージ2に移行	全都道府県で緊急事態宣言解除
5/30	感染者25日連続ゼロ	東京アラート基準超え
6/2		東京アラート発動

世界の感染が拡大する中、収束に向かい始めた日本では、自粛解除の動きが進んだ

16



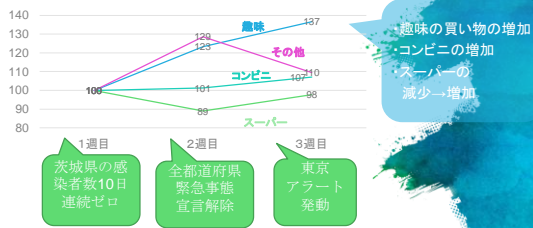
17



18

単純集計結果2

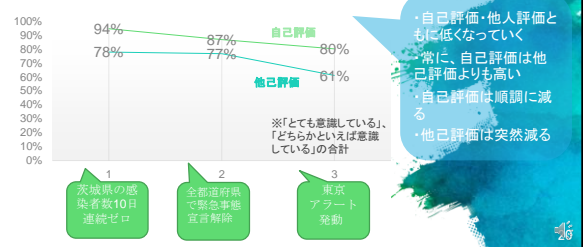
買い物に行く回数の時系列変化(%)
(1週目の食事割合を100とした値)



19

単純集計結果3

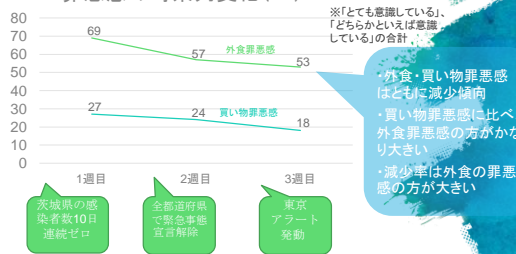
自己評価と他人評価の時間推移



20

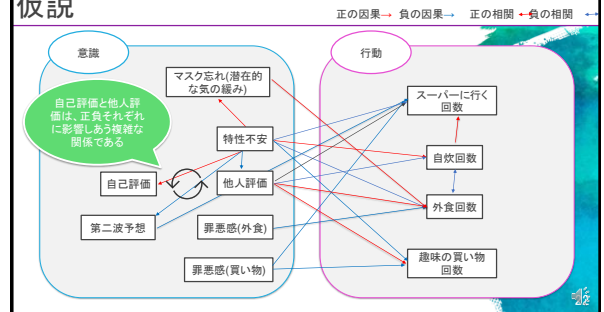
単純集計結果4

罪悪感の時系列変化(%)



21

仮説



22

属性-行動-意識の分析
:t検定

23

分析概要(t検定)

コロナ下における外出行動や食事、日々の行動に対する評価に関して

- ① 特性不安 (楽観群とその他、後述)
- ② 居住形態 (実家暮らしか一人暮らしか)...

等で、日々の行動に差があるかを比較するためにt検定を実施

従属変数:

- ・マスク着用率(毎回つけてたかどうか)
- ・日々の食事(自炊、外食の割合等)
- ・コロナに対する意識(不安、認知度)
- ・コロナ下での行動への意識(自己、他人への評価等)
- ・など

独立変数:

- ・特性不安
- ・居住形態
- ・男女
- ・など

24

特性不安とは？

特性不安とは、ある個人において比較的一定しているといわれる
性格特性としての不安である

- ① 難しいことが重なってどうにもならないと感じる
- ② 物事を難しく考えてしまう傾向がある
- ③ さほど重要でもないことが気になって考えてしまう

の3つについて、「ほとんどない、ときたま、しばしば、しょっちゅう」の4件法で質問

※岩本ら(1989). 状態—特性不安尺度(STA)の検討およびその騒音ストレスへの応用に関する研究

25

特性不安 分析過程

・回答の点数化

ほとんどない... 1pt
ときたま... 2pt
しばしば... 3pt
しょっちゅう... 4pt

※①～③の回答の合計を
求める
(最高点:12pt, 最低点:3pt)

・グループ化

	男性 (n=46)	女性 (n=44)
平均値	5.78	6.48
中央値	6	6

▶ 合計点が5以下の
回答者は「楽観」に分類

・分類結果

楽観群(n=36)
それ以外(n=54)

・検定

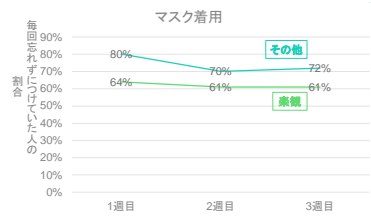
独立変数: 特性不安
従属変数: 買い物行動
食事形態
意識
etc...

- ① 難しいことが重なると感じる
- ② 物事を難しく考えてしまう
- ③ 重要じゃないことが気になる

それぞれの頻度

26

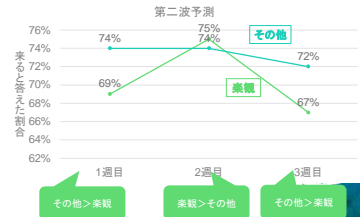
特性不安: マスクの着用



有意差はないものの、3週を通して楽観群の方が着用率が低い

27

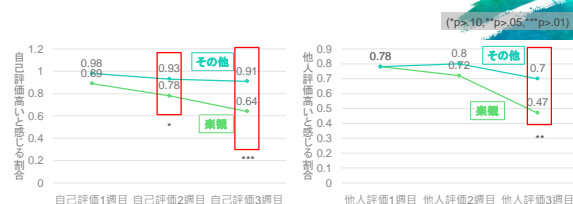
特性不安: 第二波予測



2週目以外は「その他」の方が「来る」と回答し、
1週目から3週目の変化をみると「来る」と回答する人が減っている

28

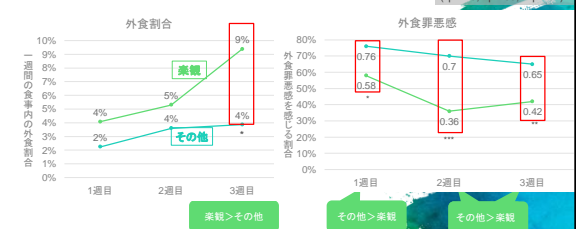
特性不安: 意識(自己評価・他人評価)



自己評価・他人評価ともその他群が高い(有意差傾向)

29

特性不安: 外食割合と外食への罪悪感



楽観群とその他群で外食割合差に有意傾向、罪悪感の差はいずれの期間も有意
▶ 楽観な人は外食をすることへの罪悪感が薄い！？

30

特性不安まとめ

〈値自体の差〉

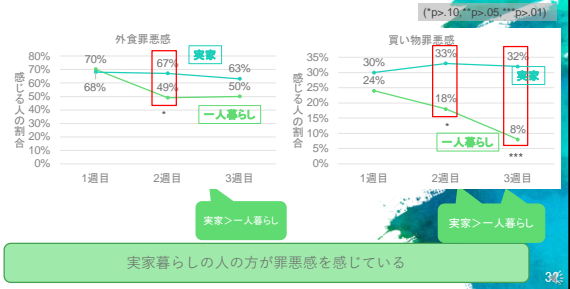
- ・外食罪悪感: **その他群**の方が感じている(有意差あり)
- ・外食頻度: 3週を通して**楽観群**の方が多い(3週目に有意差)
- ・コロナ不安: 3週とも**楽観群**の方が低かった(以前の不安感に有意差あり)
- ・コロナ認知: 自粛以前から3週目にかけて**楽観群**が増加(有意差あり)
- ・自己評価・他人評価: **楽観群**の方が低い

〈変化に見られた差〉

- ・スーパー利用回数: **その他群**の人が徐々に減少
- ・自炊回数: 1週目から2週目にかけて**その他群**の人が増加

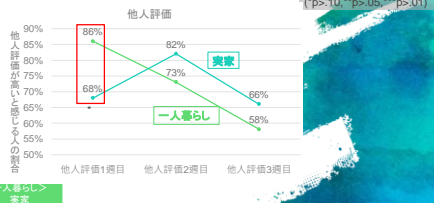
31

居住形態: 罪悪感



32

居住形態: 他人への評価



33

その他の特徴のあった項目

〈居住形態〉

値自体の差

- ・買い物: **実家群**は、自粛開始前よりスーパー・コンビニの**利用頻度激減**
- ・マスク忘れ: **実家群**のほうが忘れた回数少ない。

グラフで示した結果

- ・罪悪感: 買い物罪悪感は**実家群が高く**、一人暮らし群は減少傾向
- ・他人評価: 一人暮らし群は減少傾向。**実家群は横ばいで高い値**

▶ **実家群**の方がコロナに対する意識が強いため買い物行動が抑制されている

34

その他の特徴のあった項目

〈男女〉

- ・Q't行った回数: 女性のほうが第二週、第三週で男より多い(有意差あり)
- ・自粛開始時期: 女性のほうが遅い(有意差あり)
- ・コロナ終息予想: 女性のほうが早い(有意差あり)
- 変化の差
- ・女性は趣味の買い物、イース、Q'tへ週を重ねるごとに増加した

▶ 特性不安では悲観傾向の女性だがコロナに対しては楽観的で趣味の買い物行動に対し積極的

35

まとめ

〈特性不安〉

- ・楽観群の方がコロナを意識した生活を送っていない?

楽観群: 不安定に大きく変動、3週全体では大きく緩和

その他群: 安定的に穏やかに緩和

〈居住形態〉

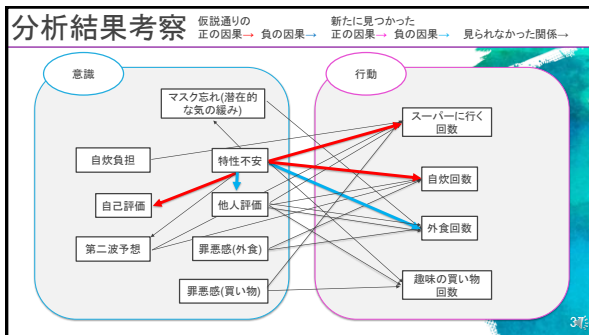
- ・**実家群**の方がコロナに対する意識が強いため買い物行動も抑制されている

▶ 家族の存在による行動決定プロセスの違い

〈男女〉

- ・不安特性では女性が不安傾向であったが、趣味系の買い物や終息予測などの項目で気の緩み方が強かった

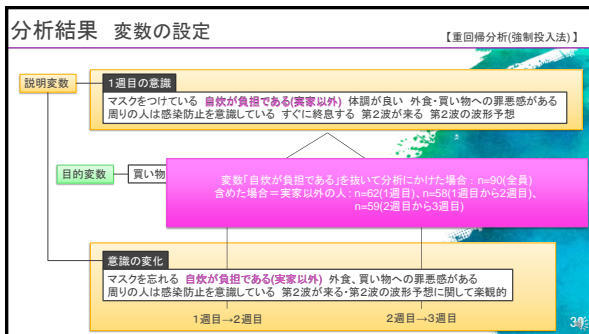
36



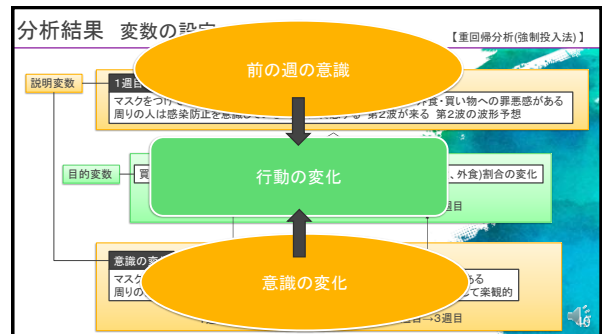
37



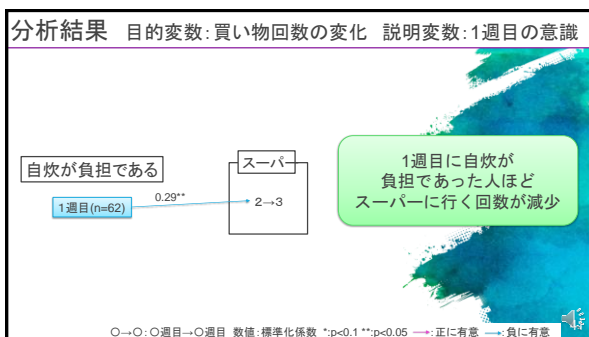
38



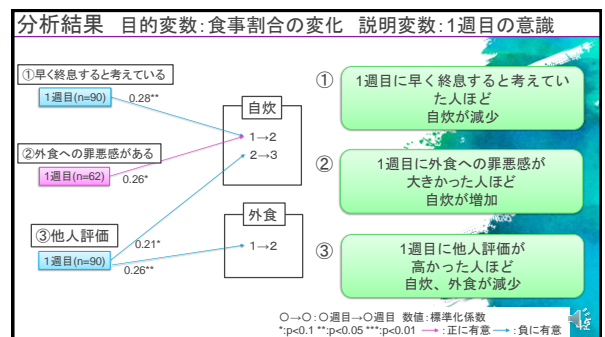
39



40



41

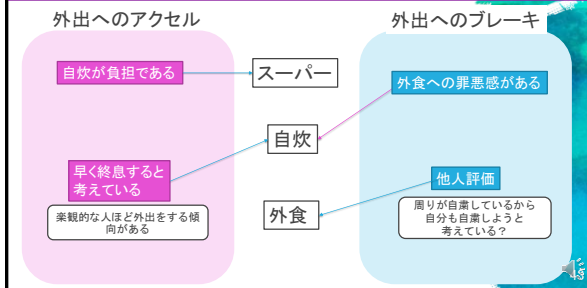


42

分析結果まとめ

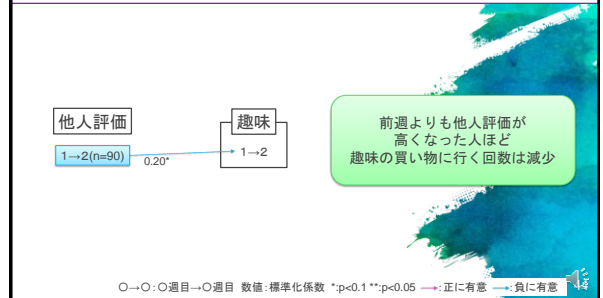
説明変数: 1週目の意識

→: 正に影響 →: 負に影響



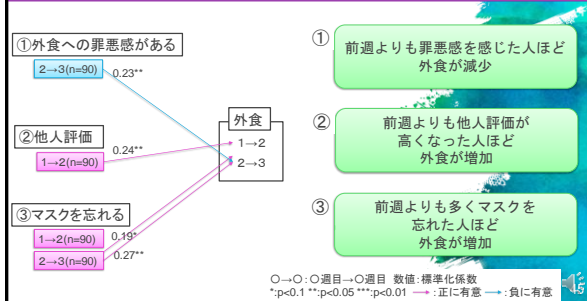
43

分析結果 目的変数: 買い物回数の変化 説明変数: 意識の変化



44

分析結果 目的変数: 食事割合の変化 説明変数: 意識の変化

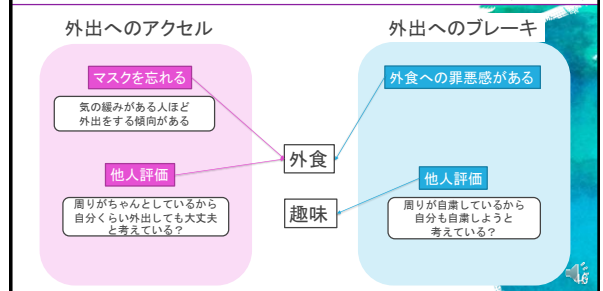


45

分析結果まとめ

説明変数: 意識の変化

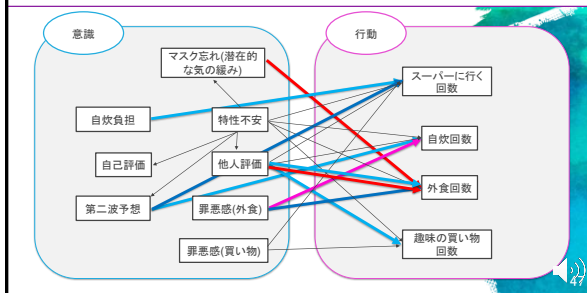
→: 正に影響 →: 負に影響



46

分析結果考察

仮説通りの正の因果 → 負の因果 → 新たに見つかった正の因果 → 負の因果 → 見られなかった関係 →



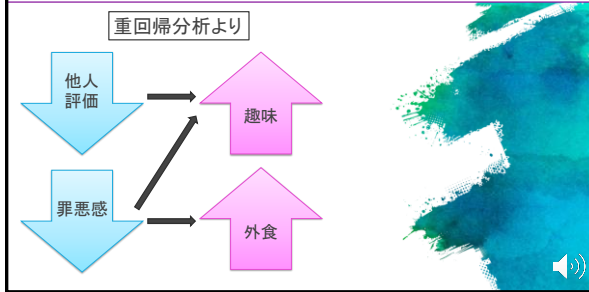
47

分析結果考察

1. 罪悪感を感じにくい人ほど外食をする傾向にある。
2. 気が緩んでいる人ほど自炊が減り、外食をする傾向にある。
3. 他人評価が下がると趣味の買い物に行く回数は増え、外食は減る傾向にある。

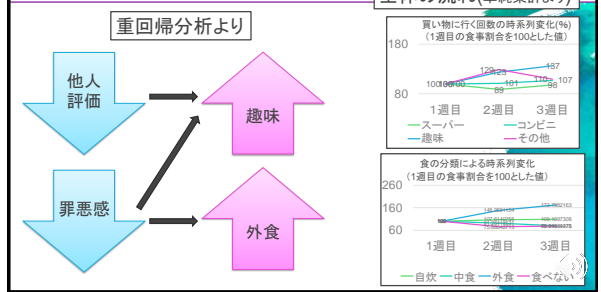
48

単純集計と比較して



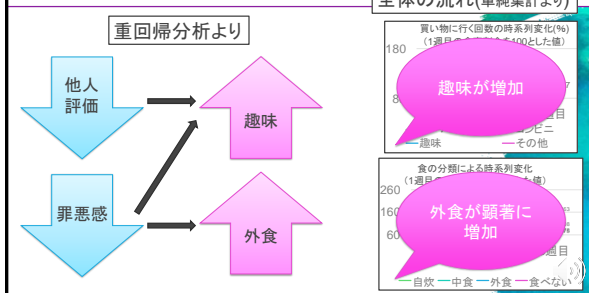
49

単純集計と比較して



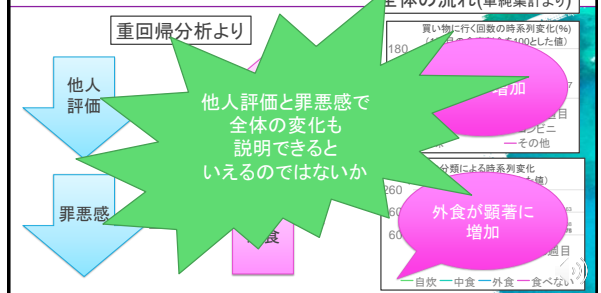
50

単純集計と比較して

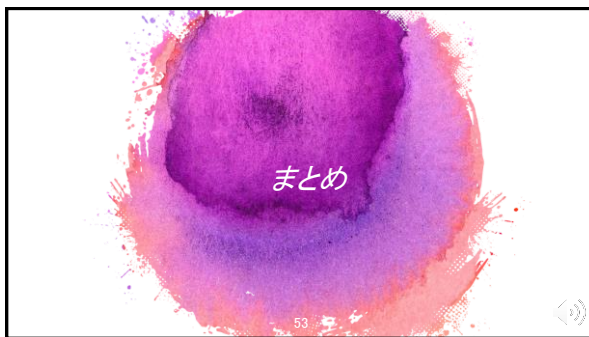


51

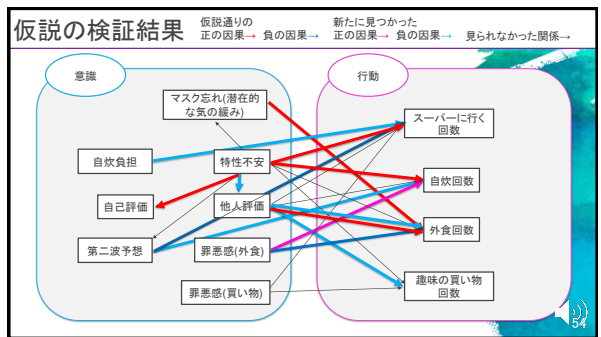
単純集計と比較して



52

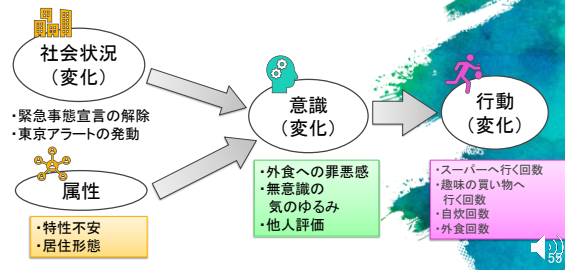


53



54

行動変化に働く要因



55

要因への対策

—罪悪感に関して—

北折(1998)：お願い、普通の禁止、強い命令、被害の提示、制裁の提示の5つのメッセージタイプのうち、被害の提示を入れたメッセージが最も効果がある。

→店頭でコロナウイルスに関する注意喚起を行う上で、**被害の提示をメッセージに入れる**と罪悪感を生じさせ、罪悪感を感じさせることができる。
EX)マスクをしないと、周りの人が感染リスクが高まる。

56

要因への対策

—他人評価に関して—

EX)Instagram「おうち時間スタンプ」

「おうち時間スタンプ」を使ったストーリーを載せることで他のユーザーがソーシャルディスタンスを実践している様子がわかる。

出典：<https://about.instagram.com/blog/announcements/coronavirus-keeping-people-safe-informed-and-supported-on-instagram>

→今回の分析結果から他人評価をを高めることで行動の抑制に効果があるとわかったので、Instagramの取り組みは効果的だと言える。

57

今後の展望

今回の結果は筑波大生90名のアンケート対象者に限ったものであり、社会の全体像までは見えたとは言えない。

今後サンプル数を増やすことで、より正確に全体レベルと個人レベルでの要因を明らかにできると考えられる。

今後同じような状況が発生した場合に、その要因に対して効果的に対策ができるだろう。

58

参考文献

参考文献

- ・Giancarlo Parady, Ayako Taniguchi, Kiyoshi Takami(2020)
"Analyzing risk perception and social influence effects on self-restriction behavior in response to the COVID-19 pandemic in Japan"
https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3618769
- ・北折充隆：社会規範からの逸脱行為に対する違反抑制メッセージの効果に関する研究。名古屋大学教育学部紀要。心理学。Vol45。pp65-74。1998
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jesp/1971/40/1/40_1_28/_article-charja/
- ・Giancarlo Parady, Ayako Taniguchi, Kiyoshi Takami: Analyzing Risk Perception and Social Influence Effects on Self-Restriction Behavior in Response to the COVID-19 Pandemic in Japan: First Results, 2020
https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3618769
- ・岩本ら(1989)。状態-特性不安尺度(STAI)の検討およびその騒音ストレスへの応用に関する研究
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjh1946/43/6/43_6_1116/_article-charja/

59

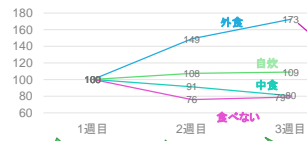
60

ご清聴ありがとうございました。

61

単純集計結果1

食の分類による時系列変化
(1週目の食事割合を100とした値)



外食が顕著に増加
自炊が微増

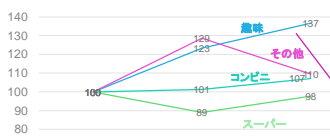
3週目の楽観群の
外食割合の増加が
大きく影響？

・「中食」……家庭外で調理・加工された食品をその店舗以外の場所で、加熱調理することなくそのまま食べられる、日持ちしない食品

62

単純集計結果2

買い物に行く回数の時系列変化(%)
(1週目の食事割合を100とした値)

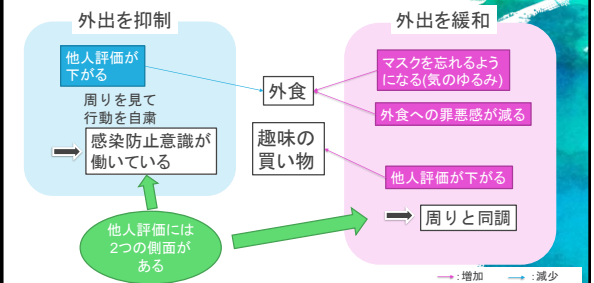


・趣味の買い物の増加
・コンビニの増加
・スーパーの減少→増加

2→3週目にかけて
女性の「趣味の買い物」が顕著に増加
Q'tの利用も増加

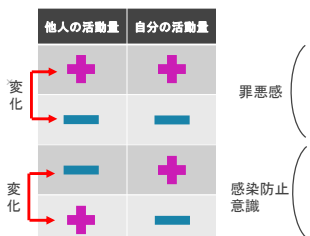
63

質疑応答用 結果のまとめ



64

質疑応答用 罪悪感と感染防止意識



65

質疑応答用 項目間の相関について

他人評価	罪悪感
・他人の目	・他人の目
・感染防止意識	

相関なし
➢ 感染防止意識
別の要因に！

外食罪悪感と他人評価	
1週目	0.099
2週目	-0.05
3週目	0.151
1→2	0.159
2→3	-0.17
買い物罪悪感と他人評価	
1週目	0.081
2週目	0.069
3週目	0.132
1→2	0.059
2→3	-0.078

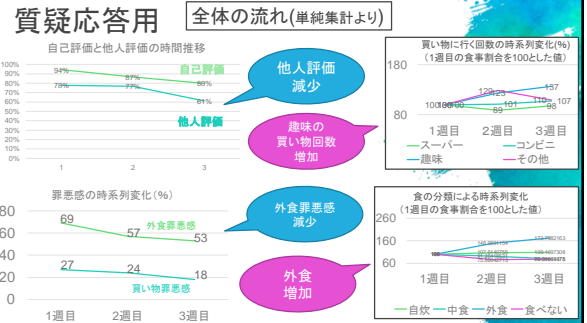
66

質疑応答用 多重共線性の診断について

自炊負担あり		自炊負担なし	
1-3週変化	MF	1-3週変化	MF
マスク1-2	1.188	マスク1-2	1.081
自炊負担1-2	1.149	他人評価1-2	1.131
他人評価1-2	1.209	外食罪悪感1-2	1.144
外食罪悪感1-2	1.1	買い物罪悪感1-2	1.112
買い物罪悪感1-2	1.336	第1-3週変化1-2	1.466
第1-3週変化1-2	1.605	第2-3週変化1-2	1.353
第2-3週変化1-2	1.448		

自炊負担あり		自炊負担なし	
1-3週変化	MF	1-3週変化	MF
マスク1-2	1.188	マスク1-2	1.081
自炊負担1-2	1.149	他人評価1-2	1.131
他人評価1-2	1.209	外食罪悪感1-2	1.144
外食罪悪感1-2	1.1	買い物罪悪感1-2	1.112
買い物罪悪感1-2	1.336	第1-3週変化1-2	1.466
第1-3週変化1-2	1.605	第2-3週変化1-2	1.353
第2-3週変化1-2	1.448		

67



68

質疑応答用 要因への対策(補足)



69

質疑応答用 結論



70

質疑応答用 結論

- ・感染防止意識は保ちつつ、感染状況に合わせて罪悪感の調整をすることで、行動制御に効果あり
- ・現状は緩和傾向であるが、罪悪感を発生させる準備をする必要がある(東京都の感染者が徐々に増えてきている事より)
- 他人の行動自粛についての情報を共有・周知

71